

2025年10月19日 コロサイ3：4－10

説教題 「真の知識に至る新しき人を着た」

### 【今日の説教から】

先週の箇所では、私たちは死んだ者であるという事が書いてありました。

「もしもあなたがたが、キリストと共に死んで世のもろもろの靈力から離れたのなら、なぜ、なおこの世に生きているもののように…」、「あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。」

しかしこうも書いてあります。

「だから、地上の肢体、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪欲、また貪欲を殺してしまいかね。」「しかし今は、これらいっさいのことを捨て、怒り、憤り、惡意、そしり、口から出る恥すべき言葉を、捨ててしまいかね。互にうそを言ってはならない。あなたがたは、古き人をその行いと一緒に脱ぎ捨て、…」

すでに死んでしまったのならば古き力は台頭しないはずです。その力に引き寄せられることもないはずです。しかし、私たちはなおも肉の性質を殺し続け、捨て続け、脱ぎ捨て続けなければならないのです。

しかし私たちは当てもない永遠の修練の旅路に投げ捨てられているではありません。孤独な戦いではありません。

「あなたがたは、古き人をその行いと一緒に脱ぎ捨て、造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである」私たちは汚れた服を脱いで新しくされ、真の知識に至る新しい人を着ています。さっぱりときれいになった私たちがどうしてまた薄汚い衣を着なおす必要があるのでしょうか。感謝です。

### 序論(御言葉の引用)

ローマ 5:17 もし、ひとりの罪過によって、そのひとりをとおして死が支配するに至ったとすれば、まして、あふれるばかりの恵みと義の賜物とを受けている者たちは、ひとりのイエス・キリストをとおし、いのちにあって、さらに力強く支配するはずではないか。

5:18 このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである。

5:19 すなわち、ひとりの人の不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである。

5:20 律法がはいり込んできたのは、罪過の増し加わるためである。しかし、罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれた。

5:21 それは、罪が死によって支配するに至ったように、恵みもまた義によって支配し、わたしたちの主イエス・キリストにより、永遠のいのちを得させるためである。

6:1 では、わたしたちは、なんと言おうか。恵みが増し加わるために、罪にとどまるべきであろうか。

6:2 断じてそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なお、その中に生きておれるだろうか。

6:3 それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。

6:4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。

6:5 もしわたしたちが、彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にもひとしくなるであろう。

6:6 わたしたちは、この事を知っている。わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字架につけられた。それは、この罪のからだが滅び、わたしたちがもはや、罪の奴隸となることがないためである。

6:7 それは、すでに死んだ者は、罪から解放されているからである。

6:8 もしわたしたちが、キリストと共に死んだなら、また彼と共に生きることを信じる。

6:9 キリストは死人の中からよみがえらされて、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼を支配しないことを、知っているからである。

6:10 なぜなら、キリストが死んだのは、ただ一度罪に対して死んだのであり、キリストが生きるのは、神に生きるのだからである。

6:11 このように、あなたがた自身も、罪に対して死んだ者であり、キリスト・イエスにあって神に生きている者であることを、認むべきである。

6:12 だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従わせることをせず、

6:13 また、あなたがたの肢体を不義の武器として罪にささげてはならない。むしろ、死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささげ、自分の肢体を義の武器として神にささげるがよい。

6:14 なぜなら、あなたがたは律法の下にあるのではなく、恵みの下にあるので、罪に支配されることはないからである。

6:15 それでは、どうなのか。律法の下にではなく、恵みの下にあるからといって、わたしたちは罪を犯すべきであろうか。断じてそうではない。

6:16 あなたがたは知らないのか。あなたがた自身が、だれかの僕になって服従するなら、あなたがたは自分の服従するその者の僕であって、死に至る罪の僕となり、あるいは、義にいたる従順の僕ともなるのである。

6:17 しかし、神は感謝すべきかな。あなたがたは罪の僕であったが、伝えられた教の基準に心から服従して、

6:18 罪から解放され、義の僕となった。

6:19 わたしは人間的な言い方をするが、それは、あなたがたの肉の弱さのゆえである。あなたがたは、かつて自分の肢体を汚れと不法との僕としてささげて不法に陥ったように、今や自分の肢体を義の僕としてささげて、きよくなねばならない。

6:20 あなたがたが罪の僕であった時は、義とは縁のない者であった。

6:21 その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。

6:22 しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。

6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

ローマ 8:1 こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。

8:3 律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。

8:4 これは律法の要求が、肉によらず靈によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。

8:5 なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、靈に従う者は靈のことを思うからである。

8:6 肉の思いは死であるが、靈の思いは、いのちと平安とである。

8:7 なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。

8:8 また、肉にある者は、神を喜ばせることができない。

8:9 しかし、神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におるのでなく、靈におるのである。もし、キリストの靈を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない。

8:10 もし、キリストがあなたがたの内におられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、靈は義のゆえに生きているのである。

8:11 もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださるであろう。

ヨハネ 6:63 人を生かすものは靈であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は靈であり、また命である。

ガラテヤ 5:14 律法の全体は、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」というこの一句に尽きるからである。

5:15 気をつけるがよい。もし互にかみ合い、食い合っているなら、あなたがたは互に滅ぼされてしまうだろう。

5:16 わたしは命じる、御靈によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。

5:17 なぜなら、肉の欲するところは御靈に反し、また御靈の欲するところは肉に反するからである。こうして、二つのものは互に相さからい、その結果、あなたがたは自分でしようと思うことを、することができないようになる。

5:18 もしあなたがたが御靈に導かれるなら、律法の下にはいない。

5:19 肉の働きは明白である。すなわち、不品行、汚れ、好色、

5:20 偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、

5:21 ねたみ、泥醉、宴楽、および、そのたぐいである。わたしは以前も言ったように、今も前もって言っておく。このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない。

5:22 しかし、御靈の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、

5:23 柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。

5:24 キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。

5:25 もしわたしたちが御靈によって生きるのなら、また御靈によって進もうではないか。

5:26 互にいどみ合い、互にねたみ合って、虚栄に生きてはならない。

ガラテヤ書では、御靈に生きるという事を、具体的に愛に生きることと要約しています。これは大変重要な解釈です。肉に生きるか、靈に生きるか、道徳的、倫理的に生きるかどうかという価値判断はしばしば曖昧です。しかし肉に生きるものは愛を成し得ないという事を考えると明白です。私たちがなぜに肉を捨てて靈に生きるべきなのか。それは私たちがいつも常にとっさにも愛に生きることの出来る世界をくじき、阻害する要因や弱さを私たちの内に持たないという事なのです。私たちは愛の実行のためにいつも用意がされている、それが靈に生きる人の特徴なのです。それが実を結び行く私たちの人生なのです。

ヨハネ 15:1 わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。

15:2 わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。

15:3 あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。

15:4 わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていよう。

枝がぶどうの木につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない。

15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

15:6 人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。人々はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまうのである。

15:7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むもの求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

15:8 あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

15:10 もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおるのであると同じである。

15:11 わたしがこれらのこと話をしたのは、わたしの喜びがあなたがたのうちに宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

15:14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15:15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るために、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

15:17 これらのこと命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。

ヨハネ 13:34 わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

13:35 互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」。

ヨハネ 8:29 わたしをつかわされたかたは、わたしと一緒におられる。わたしは、いつも神のみここにかなうことをしているから、わたしをひとり置きざりになさることはない」。

8:30 これらのこと語られたところ、多くの人々がイエスを信じた。

8:31 イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまつておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。

8:32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

ヨハネ 4:19 女はイエスに言った、「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。

4:20 わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所は、エルサレムにあると言っています」。

4:21 イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。

4:22 あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである。

4:23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、靈とまこととをもって父を礼拝する時が来る。

そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。

4:24 神は靈であるから、礼拝をする者も、靈とまこととをもって礼拝すべきである」。

4:25 女はイエスに言った、「わたしは、キリストと呼ばれるメシヤがこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いっさいのことを知らせて下さるでしょう」。

4:26 イエスは女に言われた、「あなたと話をしているこのわたしが、それである」。

4:27 そのとき、弟子たちが帰って来て、イエスがひとりの女と話しておられるのを見て不思議に思ったが、しかし、「何を求めておられますか」とも、「何を彼女と話しておられるのですか」とも、尋ねる者はひとりもなかった。

4:28 この女は水がめをそのままそこに置いて町に行き、人々に言った、

4:29 「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらんなさい。もしかしたら、この人がキリストかも知れません」。

4:30 人々は町を出て、ぞくぞくとイエスのところへ行った。

4:31 その間に弟子たちはイエスに、「先生、召しあがってください」とすすめた。

4:32 ところが、イエスは言われた、「わたしには、あなたがたの知らない食物がある」。

4:33 そこで、弟子たちが互に言った、「だれかが、何か食べるものを持ってきてさしあげたのであろうか」。

4:34 イエスは彼らに言われた、「わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみここを行ひ、そのみわざをなし遂げることである」。

4:35 あなたがたは、刈入れ時が来るまでには、まだ四か月あると、言っているではないか。しかし、わたしはあなたがたに言う。目をあげて畠を見なさい。はや色づいて刈入れを待つ

ている。

4:36 剣る者は報酬を受けて、永遠の命に至る実を集めている。まく者も剣る者も、共々に喜ぶためである。

ヤコブ 1:22 そして、御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけない。

1:23 おおよそ御言を聞くだけで行わない人は、ちょうど、自分の生れつきの顔を鏡に映して見る人のようである。

1:24 彼は自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであつたかを忘れてしまう。

1:25 これに反して、完全な自由の律法を一心に見つめてたゆまない人は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行う人である。こういう人は、その行いによって祝福される。

1:26 もし人が信心深い者だと自任しながら、舌を制することをせず、自分の心を欺いているならば、その人の信心はむなしいものである。

1:27 父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにほかならない。

マタイ 7:13 狹い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはといって行く者が多い。

7:14 命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。

7:15 にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。

7:16 あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。

7:17 そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。

7:18 良い木が悪い実をならせることはないし、悪い木が良い実をならせることはできない。

7:19 良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれる。

7:20 このように、あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。

7:21 わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。

7:22 その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。

7:23 そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行っててしまえ』。

7:24 それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。

7:25 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。

7:26 また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができよう。

7:27 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ方はひどいのである」。

マタイ 11:28 すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

11:29 わたしは柔軟で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

11:30 わたしのくびきは負いややすく、わたしの荷は軽いからである」。

皆様おはようございます。

相変わらず昼は暑く、朝晩は肌寒いという気候が続いております。10月も半ばを過ぎまして、いよいよ日が短くなってきたことを思います。

教会の暦では、来週は「降誕前第9主日」という事になります。11月30日にアドベントを迎える、待降節の待降を待つという、そんな時を迎えようとしております。

夏の疲れが一日も早く癒され、良き秋の時を楽しみ、食欲の秋、行楽の秋、少し体を動かしてスポーツの秋を楽しむことが出来たらと願います。

さて、コロサイ書も3章の半ばに差し掛かってまいりました。いよいよ核心めいたことが書き記されています。

3:3 あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。

3:4 わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。

先週の箇所である3節と今週の箇所である4節は、互いに一体を成すような箇所であることが分かります。

私たちの命はキリストとともに、神様のうちに隠されており、またキリストこそは私たちの命である。私たちにとってはキリストのうちに命があり、そしてキリストこそが私たちの命そのものである。私たちの命がキリストのうちに、キリストが私たちの命として…、このいのちはキリストのうちに混然一体となって存在しているのです。

3:5 だから、地上の肢体、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪欲、また貪欲を殺してしまひなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。

3:6 これらのことのために、神の怒りが下るのである。

5節にはだからとあります。キリストと私たちは一体とされているので、その関係にくさびを入れるようなものを捨てなさいという意味です。

先にパウロはこう言いました。

2:20 もしあなたがたが、キリストと共に死んで世のもろもろの靈力から離れたのなら、なぜ、なおこの世に生きているもののように、

2:21 「さわるな、味わうな、触れるな」などという規定に縛られているのか。

3:3 あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。

しかしここでは「殺してしまいなさい」と言っています。もう死んでしまったのではなかつたのでしょうか。

殺すべきは地上の体の部分、すなわちその説明として6つのギリシャ語の言葉が列記されています。性的不道徳、道徳上の不純、貪欲・好色、貪欲、そして邪惡・惡・間違い・傷つけること、そして再び貪欲・自分が何かに強いられてさせられているような感覚における貪欲。

これほどに畳みかけるほどに私たちの原罪にある生まれながらの肉の性質は私たちに戦いを仕掛けてくるわけで、「自分が何かに強いられてさせられているような感覚における貪欲」なのです。

ちょうどヤコブ書3章にこう書かれている通りです。

3:2 わたしたちは皆、多くのあやまちを犯すものである。もし、言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である。

3:3 馬を御するために、その口にくつわをはめるなら、その全身を引きまわすことができる。

3:4 また船を見るがよい。船体が非常に大きく、また激しい風に吹きまくられても、ごく

小さなかじ一つで、操縦者の思いのままに運転される。

3:5 それと同じく、舌は小さな器官ではあるが、よく大言壯語する。見よ、ごく小さな火でも、非常に大きな森を燃やすではないか。

3:6 舌は火である。不義の世界である。舌は、わたしたちの器官の一つとしてそなえられたものであるが、全身を汚し、生存の車輪を燃やし、自らは地獄の火で焼かれる。

3:7 あらゆる種類の獣、鳥、這うもの、海の生物は、すべて人類に制せられるし、また制せられてきた。

3:8 ところが、舌を制しうる人は、ひとりもいない。それは、制しにくい悪であって、死の毒に満ちている。

3:9 わたしたちは、この舌で父なる主をさんびし、また、同じ舌で、神にかたどって造られた人間をのろっている。

3:10 同じ口から、さんびとのろいとが出て来る。わたしの兄弟たちよ。このような事は、あるべきでない。

3:11 泉が、甘い水と苦い水とを、同じ穴からふき出すことがあろうか。

3:12 わたしの兄弟たちよ。いちじくの木がオリブの実を結び、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことができようか。塩水も、甘い水を出すことはできない。

3:13 あなたがたのうちで、知恵があり物わかりのよい人は、だれであるか。その人は、知恵にかなう柔軟な行いをしていることを、よい生活によって示すがよい。

3:14 しかし、もしあながたの心の中に、苦々しいねたみや党派心をいだいているのなら、誇り高ぶってはならない。また、真理にそむいて偽ってはならない。

3:15 そのような知恵は、上から下ってきたものではなくて、地につくもの、肉に属するもの、悪魔的なものである。

3:16 ねたみと党派心とのあるところには、混乱とあらゆる忌むべき行為とがある。

3:17 しかし上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ち、かたより見ず、偽りがない。

3:18 義の実は、平和を造り出す人たちによって、平和のうちにまかれるものである。

このように、わたくしたちの内には不義の世界があり、制しにくい悪であって、死の毒に満ちている、そういう悪がはびこっていて、それによって私たちは強いられて行動させられているように感じるのです。それが私たちの貪欲であると聖書は語ります。

それは欲しい欲しいという際限なき欲求であり、ヤコブ4章で次のように語られているような出来事に発展するのです。

4:1 あなたがたの中の戦いや争いは、いったい、どこから起るのか。それはほかではない。あなたがたの肢体の中で相戦う欲情からではないか。

4:2 あなたがたは、むさぼるが得られない。そこで人殺しをする。熱望するが手に入れることができない。そこで争い戦う。あなたがたは、求めないから得られないのだ。

4:3 求めても与えられないのは、快樂のために使おうとして、悪い求め方をするからだ。

4:4 不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。およそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである。

自分のことを追い求めるがゆえに、他の人を踏みにじろうとする心。自分をひたすらに最優先にしようとする心。それが争いや戦いの原因だというのです。欲しいという気持ちを抑えられないままに、人の者を取ってでも手に入れたいという心に陥る。これがあらゆる惡の根であるわけです。

1 テモテ 6:5 また知性が腐って、真理にそむき、信心を利得と心得る者どもの間に、はてしないいがみ合いが起るのである。

6:6 しかし、信心があって足ることを知るのは、大きな利得である。

6:7 わたしたちは、何ひとつ持たないでこの世にきた。また、何ひとつ持たないでこの世を去って行く。

6:8 ただ衣食があれば、それで足れりとすべきである。

6:9 富むことを願い求める者は、誘惑と、わなに陥り、また、人を滅びと破壊とに沈ませる、無分別な恐ろしいさまざまの情欲に陥るのである。

6:10 金銭を愛することは、すべての惡の根である。ある人々は欲ばって金銭を求めたため、信仰から迷い出て、多くの苦痛をもって自分自身を刺しとおした。

6:11 しかし、神の人よ。あなたはこれらの事を避けなさい。そして、義と信心と信仰と愛と忍耐と柔軟とを追い求めなさい。

6:12 信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである。

マタイ 6:22 目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだろう。

6:23 しかし、あなたの目が悪ければ、全身も暗いだろう。だから、もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであろう。

6:24 だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

6:25 それだから、あなたがたに言っておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物に

まさり、からだは着物にまさるではないか。

6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取りいれることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。

6:27 あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかつた。

6:30 きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように裝つて下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださいならないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。

6:32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦労は、その日一日だけで十分である。

私たちは人のためならば命を捨てるというイエス様を愛してこのお方を信じる生き方へと入れられました。そこから始まった信仰ですから、いつもそこに居続ける歩みをしたいと願います。

マタイ 20:20 そのとき、ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまづき、何事かをお願いした。

20:21 そこでイエスは彼女に言われた、「何をしてほしいのか」。彼女は言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりはあなたの右に、ひとりは左にすわれるよう、お言葉をください」。

20:22 イエスは答えて言われた、「あなたがたは、自分が何を求めているのか、わかっていない。わたしの飲もうとしている杯を飲むことができるか」。彼らは「できます」と答えた。

20:23 イエスは彼らに言われた、「確かに、あなたがたはわたしの杯を飲むことになろう。しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、わたしの父によ

って備えられている人々だけに許されることである」。

20:24 十人の者はこれを聞いて、このふたりの兄弟たちのことで憤慨した。

20:25 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。

20:26 あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、

20:27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。

20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

3:6 これらのことのために、神の怒りが下るのである。

3:7 あなたがたも、以前これらのうちに日を過ごしていた時には、これらのことをして歩いていた。

「あなたがたも、以前これらのうちに日を過ごしていた時には、これらのことをして歩いていた」という表現はユニークです。

いわば、「あなたがたはラーメンを食べることが好きだった時にはラーメンを好きで食べた」というような、繰り返しの表現です。

ここに神様の熱い視線があるのではないでしょうか。プラプラとさまよって、真理から離れて進み歩く私たち。その私たちが右にそれ、左に逸するのを神様はじっと見ておられたのです。結局明けても暮れてもねそのように的を外した人生を送っていたという事です。

3:8 しかし今は、これらいっさいのことを捨て、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を、捨ててしまいなさい。

3:9 互にうそを言ってはならない。あなたがたは、古き人をその行いと一緒に脱ぎ捨て、

3:10 造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである。

「古き人とその行い」です。怒り、憤り、悪意、そしり・軽蔑と侮辱と冒涜、口から出る恥ずかしき言葉。自分が中心、自分が大将。人はどうでもいい。こういう性質がいつまでもいつも私たちの心の中にあり、それらを捨て去って、うそを語って誠実を憎んで眞実を隠蔽する、そういう古い生き方を捨てて正直に語り、そういう古く、汚い、悪臭を放つぼろ服を脱ぎ棄てて、「造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着た」。

ここに勝利があります。ここに希望があります。貪欲によってどろどろに汚れていた服を着

続けて、鼻つまみ者でいることはもうなくなり、今は清浄で高貴なる「真の知識に至る新しき人を着た」のです。「造り主のかたちに従って新しくされ」たのです。造り主の形に従って新しくされたというのですよ。これは本当に奇跡的な、本格的な改装工事をしてもらったという事なのです。古き自我の芬々たる悪臭は消え去り、「造り主のかたちに従って新しくされ」、「真の知識に至る新しき人を着た」のです。これはなんという革命的な変化なのでしょうか。そんな恵みと徹底的な変化、リニューアルオープンを遂げさせていただいた私たちは、どんなに果報者なのでしょうか。いえいえ、これは因果に報いられた出来事ではありません。これは神様の一方的な恵みです。神様がイエス様を十字架にくぎ付けにされ、その命を注いで私たちを生かしてくださる赦しの業によるものなのです。感謝しながら、新しい人とされた喜びに満ち溢れて、「真の知識に至る」道を辿らせていただき、いつもきよめられ、作り直していただき、「造り主のかたちに従って新しくされ」る日々に生かしていただきたいと願うのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちは自分の弱さのゆえに、孤立無援でどこに助けを求めたらよいか分からぬがゆえに、ついつい自分流儀で事を行ってしまおうとするものです。しかし私たちには「造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達する」道が与えられていますから、ありがとうございます。清く、正しく、美しく、祝福に満ちた明るく楽しい道を歩くことが出来ますことをありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン